

## 参考文献

- 饗場孝男（一九七五年）「実存と夢の痛き織物」大岡他編『中原中也研究』（青土社）所収
- 青木健（一九九一年）「作家案内——中原中也」『中原中也全詩歌集 下』（講談社文芸文庫）所収
- 青木健編（一九九三年）『年表作家読本 中原中也』河出書房新社
- 青山二郎（一九三七年）「獨り言」『文學界』第四卷一二号、一七二—一七四ページ
- 青山二郎（一九五一年a）「私の接した中原中也」『中原中也全集月報1』創元社
- 青山二郎（一九五一年b）「酒場『ウインゾア』の頃」『中原中也全集月報2』創元社
- 青山二郎（一九五一年c）「四谷の頃」『中原中也全集月報3』創元社
- 秋山駿（一九七四年）『小林秀雄と中原中也』第三文明社
- 秋山駿（一九七七年）『知られざる炎——評伝中原中也』河出書房新社
- 秋山孝男（一九七四年）「借金魔」『大岡昇平全集月報4』中央公論社
- 朝吹三吉（一九八五年）「一九三〇年代バリ」『高田博厚著作集月報1』朝日新聞社
- 朝吹登水子（一九八五年）「愛称タツクの高田さん」『高田博厚著作集月報3』朝日新聞社
- 阿部六郎（一九八七年）「中原中也断片」『阿部六郎全集第二卷』（一穂社）所収
- 栗津則雄（一九七三年）『アルテュール・ランボオ』NHKブックス
- 栗津則雄（一九七五年）『ランボオとボードレール』第三文明社
- 栗津則雄（一九七六年）『大岡・中原・富永』第三文明社
- 石原純、岡本一平（一九七一年）『アインシュタイン講演録』東京図書

岩井寛（一九七三年）「分裂病圈と考えられる作家と創造性」『解釋と鑑賞』第三八卷二号、一一五—

一一八ページ

いわき市立草野心平記念文学館（二〇〇一年）『中原中也展——中也と心平の青春交友——図録』いわき

市立草野心平記念文学館

H・J・エランベルジェ（一九八四年）『創造の病い』という概念—飯田他編『精神の科学別巻 諸外国

の研究状況と展望』（岩波書店）所収

大岡昇平（一九四八年）「中原中也傳」『文藝』第六卷八号、四九—六一ページ

大岡昇平（一九五八年）『朝の歌』角川書店

大岡昇平（一九六七年a）『在りし日の歌』角川書店

大岡昇平（一九六七年b）『解説』大岡、中村、吉田編『中原中也全集第3巻』角川書店

大岡昇平（一九七四年a）『中原中也』角川書店

大岡昇平（一九七四年b）『解説』『白痴群』複製版（日本近代文学館）解説

大岡昇平（一九七四年c）『富永太郎——書簡を通してみた生涯と作品』中央公論社

大岡昇平（一九七五年a）『富永太郎と中原中也』第三文明社

大岡昇平（一九七五年b）「中原中也の読まれかた」大岡他編『中原中也研究』（青土社）所収

大岡昇平（一九七九年）「中原中也、思い出すことなど」吉田編『別冊國文學 中原中也必携』學燈社

大岡昇平（一九八二年）『生と歌——中原中也その後』角川書店

大岡昇平（一九九六年）『疎開日記』『大岡昇平全集第14巻』（筑摩書房）所収

大岡昇平、鮎川信夫、中村稔、大岡信（一九八二年）「対談——恩寵の詩人中原中也」大岡昇平『生と歌』

（角川書店）所収

- 大岡昇平、中村稔、吉田漣生編（一九六八年）『中原中也全集第4巻 日記・書簡』角川書店
- 大岡昇平、中村稔、吉田漣生編（一九七一年）『中原中也全集別巻 本文補遺・研究篇』角川書店
- 大岡昇平、中村稔、吉田漣生（一九七四年）「対談——悲しみの構造」『ユリイカ』第六巻一—号、一一—四  
—一二—ページ
- 大岡昇平、吉田漣生（一九八三年）「対談——中原中也再検討」『國文學』第二八巻五号、六一—二五—ページ
- 大岡昇平、吉本隆明（一九八二年）「対談——詩は行動する」大岡昇平『生と歌』（角川書店）所収
- 大岡昇平他編（二〇〇〇年a）『新編中原中也全集第一巻 詩I 解題篇』角川書店
- 大岡昇平他編（二〇〇〇年b）『新編中原中也全集第三巻 翻訳 解題篇』角川書店
- 大岡昇平他編（二〇〇一年）『新編中原中也全集第二巻 詩II 解題篇』角川書店
- 大岡昇平他編（二〇〇三年a）『新編中原中也全集第五巻 日記・書簡 解題篇』角川書店
- 大岡昇平他編（二〇〇三年b）『新編中原中也全集第四巻 評論・小説 解題篇』角川書店
- 大岡信（一九七八年）「中原中也——幸福の希求と慈愛の世界」『現代詩読本——1 中原中也』（思潮社）所収
- 太田静一（一九八一年）『中原中也 愛憎の告白——初期詩篇考』自由国民社
- 太田静一（一九八六年）『中原中也詩における小林秀雄像』桜風社
- 小川五郎（一九六〇年）『中原中也の歌』小林他編『中原中也全集』（角川書店）中原中也全集ノート
- 小高根二郎（一九七五年）「中也・静雄・達治の間」『解釋と鑑賞』第四〇巻四号、六一—一三—ページ
- 小高根二郎（一九八七年）『歌の鬼——前川佐美雄』沖積舎
- 加賀乙彦（一九七三年）「文学的想像力と狂気と夢」『解釋と鑑賞 作家と狂気』一五—二〇—ページ
- 加賀乙彦（一九九一年）「中原中也の診断——病床日誌を読んで」『新文芸読本 中原中也』（河出書房新社）

所収

- 笠原敏雄（一九九五年）『隠された心の力——唯物論という幻想』春秋社
- 笠原敏雄（一九九七年）『懲りない・困らない症候群——日常生活の精神病理学』春秋社
- 笠原敏雄（二〇〇四年）『幸福否定の構造』春秋社
- 金子務（一九九二年）『アインシュタイン・ショッカー』河出書房新社
- 鎌倉文学館（一九九八年）『特別展 中原中也——鎌倉の軌跡』鎌倉文学館
- 河上徹太郎（一九六九年）『日本のアウトサイダー』新潮文庫
- 河上徹太郎（一九七四年a）『わが中原中也』昭和出版
- 河上徹太郎（一九七四年b）『思い出』『白痴群』複製版（日本近代文学館）解説
- 河上徹太郎（一九八一年）『河上徹太郎著作集第二巻』新潮社
- 川嶋至（一九七四年）『中原中也の生活と芸術』『ユリイカ』第六卷一一号、九六—一〇一ページ
- 菊岡久利（一九三七年）『鎌倉の曇り日』『文學界』第四卷一二号、一六九—一七二ページ
- 北川透（一九六八年）『中原中也の世界』紀伊国屋新書
- 北川透（一九七六年）『いのちの淵より——中原中也と風土』『磁場』第二卷七号、二一—三二ページ
- 北川冬彦（一九七〇年）『一瞥の中原中也』『ユリイカ』第二卷一〇号、一〇〇—一〇二ページ
- 草野心平（一九七六年）『中原中也』『文芸読本 中原中也』（河出書房新社）所収
- 黒田三郎（一九七六年）『日本の詩に対するひとつの疑問』『文芸読本 中原中也』（河出書房新社）所収
- P・クローデル（一九九九年）『孤独な帝国 日本の一九二〇年代』草思社
- 小出直三郎（一九六八年）『訪問魔中原中也』『中原中也全集第4巻』（角川書店）月報
- 小林秀雄（一九四八年）『中原中也の思ひ出』『文藝』第六卷八号、四五—四八ページ

- 小林秀雄（一九六八年）『金閣焼亡』『古典と伝統について』（講談社）所収
- 小林秀雄（一九八〇年）『考えるヒント4 ランボオ・中原中也』文春文庫
- 小林秀雄、河上徹太郎、大岡昇平、中村稔編（一九六〇年）『中原中也全集』角川書店
- 今日出海（一九二八年）『詩人中原中也』『文藝都市』第一卷一〇号、一〇四—一〇六ページ
- 近藤晴彦（一九八三年）『中原中也——遠いものを求めて』沖積舎
- 坂口安吾（一九五七年）『墮落論』角川文庫
- 坂口安吾（一九六八年）『二十七歳』『坂口安吾全集第三卷』（冬樹社）所収
- 佐々木幹郎（一九九七年）『校正刷発見の経緯』『中原中也研究』第二号、一三六—一四〇ページ
- 佐々木幹郎（一九九九年）『佐美雄との交流』『中原中也研究』第四号、一六九—一七九ページ
- 佐々木幹郎（二〇〇一年）『編註（安原喜弘「晩年の手記」への）』『中原中也研究』第六号、一五五—一五九ページ
- 佐藤泰正（二〇〇〇年）『中原中也という場所』『ユリイカ』第三二卷八号、九二—一〇二ページ
- 佐藤泰正、大岡昇平（一九八五年）『中原中也の詩の世界』教文館
- 島木健作（一九三九年）『隨筆と小品』河出書房
- 杉森久英（一九六九年）『天才と狂人の間』角川文庫
- 鈴木みどり（一九六三年）『中原中也とランボオ』『比較文学』第六卷、四四—五三ページ
- I・ステイヴンソン（一九九〇年）『前世を記憶する子どもたち』日本教文社
- N・P・スパノス他（二〇〇二年）『いぼの退縮に対する催眠療法、偽薬、サリチル酸治療の効果』笠原編『偽薬効果』（春秋社）所収
- M・セイボム（一九八六年）『「あの世」からの帰還』日本教文社

- 関義（一九五六年）「アテネ・フランセのころ」『ユリイカ』第一巻二号、三三―三五ページ
- 関口隆克（一九三七年a）「幻想と悲しみと祈り」『四季』第三二号、八一―〇ページ
- 関口隆克（一九三七年b）「北澤時代以後」『文學界』第四卷二二号、一八三―一八六ページ
- 関口隆克（一九七四年）「中原中也との出会いと別れ」『白痴群』複製版（日本近代文学館）解説
- 曾根富美子（一九九〇年）『含羞<sup>はじろ</sup>——我が友中原中也1・2』講談社モーニングKC
- 高田博厚（一九六八年）「中原中也のこと」大岡他編『中原中也全集第5巻』（角川書店）月報
- 高田博厚（一九七二年）「中原中也」『人間の風景——高田博厚芸術ノート』（朝日新聞社）所収
- 高野芳子（一九七六年）『わが青春 深尾須磨子』無限
- 高橋幸一（一九七一年）「断片的回想」大岡他編『中原中也全集別巻』（角川書店）月報
- 高橋新吉（一九七五年）「中原中也の思い出」『解釋と鑑賞』第四〇巻四号、一四―一五ページ
- 高橋新吉（一九七六年）「茶色い戦争」『文芸読本 中原中也』（河出書房新社）所収
- 高橋新吉（一九八二年）『ダガバジジンギザ物語』『高橋新吉全集第Ⅲ巻』（青土社）所収
- 高見澤潤子（一九八五年）『兄小林秀雄』新潮社
- 高村光太郎（一九七八年）「夭折を惜しむ——抒情詩を超えた抒情詩」『現代詩読本——1 中原中也』（思潮社）所収
- 高森文夫（一九六七年）「過ぎし日の事ども」大岡他編『中原中也全集第2巻』（角川書店）月報
- 高森文夫（一九六九年）「ある歳末の記憶」『詩学』第二四卷一〇号、六四―六五ページ
- 檀一雄（一九七七年）「小説太宰治」『檀一雄全集第七巻』（新潮社）所収
- 富倉徳次郎（一九六〇年）「中原中也と僕」小林他編『中原中也全集』（角川書店）月報
- 富永次郎（一九七四年）『白痴群』のころ』『大岡昇平全集第13巻』（中央公論社）月報

参考文献

- E・ドラエー（一九七八年）「親しい思い出」宇佐見齊編『素顔のランボー』（白水社）所収
- 永井叔（一九七〇年）『大空詩人——自叙伝・青春篇』同成社
- 中井久夫（一九九八年）『最終講義——分裂病私見』みず書房
- 永井龍男（一九八二年a）「中原中也」『永井龍男全集第十一卷』（講談社）所収
- 永井龍男（一九八二年b）「小笠原諸島」『永井龍男全集第十一卷』（講談社）所収
- 中垣（長谷川）泰子（一九五一年）「中原の思ひ出」『中原中也全集月報3』創元社
- 中野良平（一九七五年）「長谷川泰子をめぐって」『日本病跡学雑誌』第一〇号、三五—四九ページ
- 中原貞郎（一九七六年）『海の旅路——中也・山頭火のこと他』昭和出版
- 中原思郎（一九六八年）「兄」『中原中也全集第4巻』（角川書店）所収
- 中原思郎（一九七〇年）「兄中原中也と祖先たち」審美社
- 中原思郎（一九七八年a）「兄中原中也のおもい出——現実生活と詩生活」『現代詩読本——1 中原中也』（思潮社）所収
- 中原思郎（一九七八年b）『中原中也ノート』審美社
- 中原思郎（一九七九年）「事典・中也詩と故郷」吉田瀨生編『別冊國文學 中原中也必携』學燈社
- 中原思郎、吉田瀨生編（一九七二年）『中原中也アルバム』角川書店
- 中原中也（一九六七年a）『中原中也全集第1巻 詩I』角川書店
- 中原中也（一九六七年b）『中原中也全集第2巻 詩II』角川書店
- 中原中也（一九六七年c）『中原中也全集第3巻 評論・小説』角川書店
- 中原中也（一九六八年a）『中原中也全集第4巻 日記・書簡』角川書店
- 中原中也（一九六八年b）『中原中也全集第5巻 翻訳』角川書店

- 中原中也（二〇〇〇年）『療養日誌』『ユリイカ』第三二卷八号、一〇三—一二八ページ  
 中原中也記念館（一九九七年a）『中原中也とランボー』中原中也記念館  
 中原中也記念館（一九九七年b）『天使の手帖』中原中也記念館  
 中原中也記念館（一九九八年）『山羊の歌』が世に出るまで』中原中也記念館  
 中原中也記念館（二〇〇二年）『丘の上あがって——中村古峽と中原中也』中原中也記念館  
 中原フク（村上護編）（一九七三年）『私の上に降る雪は——わが子中原中也を語る』講談社  
 中原フク（村上護編）（一九八一年）『私の上に降る雪は——わが子中原中也を語る』講談社文庫  
 中原フク、関口隆克（一九七四年）「対談——詩人中原中也の母として・友として」『ひろば』第六一  
 号、四六一—五五ページ  
 永藤武（二〇〇二年）『伊東静雄論・中原中也論』おうふう  
 中村光夫（一九八一年）『今はむかし——ある文学的回想』中公文庫  
 中村稔（一九七四年）『白痴群』と中原中也』『白痴群』複製版（日本近代文学館）解説  
 中村稔（一九九〇年）『中原中也——言葉なき歌』筑摩書房  
 野田真吉（一九八八年）『中原中也——わが青春の漂泊』泰流社  
 野々上慶一（一九八五年）『さまざまな追想——文士というさむらいたち』文藝春秋  
 野々上慶一（一九九八年）『文圃堂こぼれ話——中原中也のことども』小沢書店  
 萩原朔太郎（一九三五年）『詩壇時感』『四季』第一〇号、二八—三三ページ  
 萩原朔太郎（一九三七年）『中原中也君の印象』『文學界』第四卷二二号、一八〇—一八一ページ  
 長谷川泰子（村上護編）（一九七四年）『ゆきてかへらぬ 中原中也との愛』講談社  
 長谷川泰子（一九九二年）『中也・愛と訣れ』長野隆編『中原中也——魂とリズム』（有精堂）所収



参考文献

- 長谷川泰子、秋山駿（一九九二年）「中也・在りし日の夢」『新文芸読本 中原中也』（河出書房新社）所収
- J・パラシオス（二〇〇三年）『今、ビリオン神父を追う——幕末から昭和まで』アガリ総合研究所
- 春原千秋、梶谷哲男（一九七二年）『現代文学者の病蹟——創造と狂気の謎』新宿書房
- 樋口覚（一九九六年）『中原中也——いのちの声』講談社
- 飛高隆夫（一九七五年）『評伝・中原中也』『解釋と鑑賞』第四〇巻四号、九九—一〇〇ページ
- 飛高隆夫（一九七六年）『中原中也と立原道造』秋山書店
- 平井啓之（一九七四年）『わが中也論序説』『ユリイカ』第六卷一一号、七四—八〇ページ
- 平井啓之（一九八八年）『テキストと実存——ランボー、マラルメ、サルトル、中原と小林』青土社
- S・ピンカー（一九九五年）『言語を生み出す本能 上・下』NHKブックス
- 福田万里子（二〇〇〇年）「中也は愛雅をうたっただろうか」『中原中也の會會報』第9号、四—五ページ
- 二木晴美（一九九二年）『「白痴群」とその周辺に就いて』長野隆編『中原中也——魂とリズム』（有精堂）所収
- S・フロイト（一九七〇年）『フロイト著作集 4』人文書院
- W・ブロード、N・ウェード（一九八八年）『背信の科学者たち』化学同人
- 福島章（一九七〇年）「中原中也の精神病理・素描」『ユリイカ』第二卷一〇号、一六七—一七三ページ
- 福島章（一九七二年）『正気と狂気の間』至文堂
- 福島章（一九七八年）『天才の精神分析』新曜社
- 福島章（一九九二年）「中原中也」長野隆編『中原中也——魂とリズム』（有精堂）所収
- 古谷綱武（一九六七年）「中原のこと」大岡他編『中原中也全集第1巻』（角川書店）月報
- 分銅惇作（一九七四年）『中原中也』講談社現代新書

- 堀内達夫（一九七〇年）『覚書』『複製版 山羊の歌』（麥書房）別冊
- 堀内達夫（一九七五年）『山羊の歌』をめぐって』『ユリイカ』第二卷一〇号、一一三—一一五ページ
- 正岡忠三郎（一九六七年）『ダダさんの思い出』大岡他編『中原中也全集第3卷』（角川書店）月報
- H・マタラツソー、P・プティフィス（一九七二年）『ランボーの生涯』筑摩書房
- 松田利勝（一九六七年）『思いだすこと』大岡他編『中原中也全集第3卷』（角川書店）月報
- 松原新一（一九七四年）『中原中也について』『ユリイカ』第六卷一一号、八八—九五ページ
- 三杉隆敏（一九九六年）『真贋ものがたり』岩波新書
- 三好達治（一九七六年）『ぶつくさ』『文芸読本 中原中也』（河出書房新社）所収
- 村井康男（一九六七年）『思い出すままに』大岡他編『中原中也全集第2卷』（角川書店）月報
- 村上護（一九七八年）『文壇資料 四谷花園アパート』講談社
- 村上護（一九七九年）『中原中也の詩と生涯』講談社
- 室生犀星（一九三五年）『淺春日記』『文藝』第三卷三号、五二—五七ページ
- R・メスナー（一九八三年）『死の地帯』山と溪谷社
- E・S・モース（一九七一年）『日本その日その日 3』平凡社
- M・モータ（一九七八年）『ランボーとヴェルレーヌ』宇佐見斉編『素顔のランボー』（白水社）所収
- 諸井三郎（一九六七年）『スルヤ』の頃の中原中也』大岡他編『中原中也全集第1卷』（角川書店）月報
- 諸井三郎（一九七〇年）『中也に始めて会った日のこと』『ユリイカ』第二卷一〇号、八四—八五ページ
- 諸田和治（一九六四年）『想見者の詩法』『文学者』三月号、二九—四七ページ
- 安原喜弘（一九七六年）『中原中也のこと』『磁場』第二卷七号、六一—一三ページ
- 安原喜弘（一九七九年）『中原中也の手紙』玉川大学出版部

参考文献

- 安原喜弘(二〇〇〇年)『中原中也の手紙』青土社
- 安原喜弘(二〇〇一年)「小林秀雄の思い出」『中原中也研究』第六号、一一〇―一一九ページ
- 吉田秀和(一九七〇年)「中原のことを書くのは、もう、よさなければ」『ユリイカ』第二卷一〇号、九八―一九九ページ
- 吉田秀和(一九八六年)『ソロモンの歌』朝日文庫
- 吉田秀和(一九九四年)『文学のとき』白水社
- 吉田瀬生(一九六六年)「大岡昇平と中原中也」『解釋と鑑賞』第三一巻九号、七〇―七四ページ
- 吉田瀬生(一九七八年)「解説 中原中也未発表書簡」『海』第一〇巻五号、二九六―二九七ページ
- 吉田瀬生(一九九二年)「人間詩人・中也」『中原中也 汚れつちまつた悲しみに』(大和出版) 所収
- 吉田瀬生(一九九六年)『評伝中原中也』講談社文芸文庫
- 吉田瀬生(一九九七年)『作家の自伝 中原中也』日本図書センター
- A・ランボオ(一九四〇年)『ランボオの手紙』改造社文庫
- K・リング(一九九一年)「臨死体験者の変容の意味」グレイソン、フリン編『臨死体験』(春秋社) 所収
- 渡辺淳一(一九九〇年)『遠き落日 上』集英社文庫
- Bergson, H. (1920). *Mind-Energy: Lectures and Essays*. New York: Henry Holt and Company.
- Collins, H., and Pinch, T. (1993). *The Golem: What Everyone Should Know About Science*. Cambridge: Cambridge University Press.
- DuBreuil, S.C., and Spanos, N.P. (1993). Psychological treatment of warts. In J.W. Rhue, S.J. Lynn & I. Kirsch (Eds.), *Handbook of Clinical Hypnosis* (pp. 623-48). Washington, DC: American Psychological Association.
- Ellenberger, H.F. (1968). The concept of creative illness. *Psychanalytic Review*, 55, 442-56.
- Kroesler, A. (1955). *The Trail of the Dinosaur & Other Essays*. London: Collins.